

建機市場は全体としては堅調に推移

主要得意先各社固有事情により第1四半期は一時的に減収減益

ヤマシンフィルタ株式会社
2020年3月期第1四半期
決算説明資料

東証一部

6240

2019年8月6日

20年3月期第1四半期における事業環境・当社取り組みについて

事業環境

- ・世界の建機市場の約5割を占める中国市場において、主要得意先各社はシェア縮小、また各得意先固有の事情等により一時的な在庫調整を実施
- ・米中貿易摩擦の懸念があるが、中国経済はインフラ投資拡大に伴い、堅調に推移
- ・北米・欧州・日本の建機需要も堅調に推移
- ・堅調な需要に加えて、中国の排ガス規制を契機に中国ローカルメーカーへの参入拡大を図る



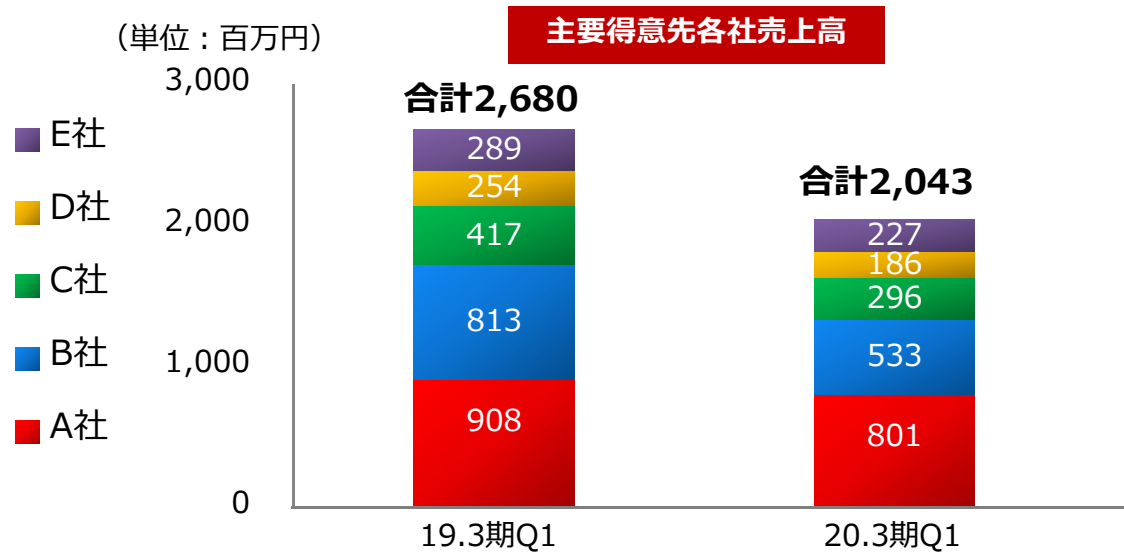
当社取り組み

- ・建機メーカー各社の一時的な在庫調整に起因した受注減少に伴い売上高は前年同期比で減収
- ・建機用フィルタを主軸に新素材やIoT技術を活かしたラインナップの充実を図った
- ・「合成高分子系ナノファイバー」「YAMASHIN Nano Filter™」の量産化技術を軸に事業ポートフォリオの拡大、M&Aによる新規事業分野への進出を加速
- ・利益創出体制の確立を企図した全社的プロジェクトである「Project PAC 19」を立ち上げ、サプライチェーンを強化を図った

20年3月期第1四半期業績動向

- ・ **売上高・営業利益は減収減益**
- ・ 売上高は得意先建機メーカーの各社固有事情に起因した一時的な在庫調整により、**前年同期比21.5%減収の2,740(百万円)**となった
- ・ 営業利益は売上高の減により、**前年同期比77.5%減益の117(百万円)**
- ・ **主要得意先各社の固有の要因(P.2)に基づく在庫調整局面が終了したことを踏まえ受注は順調に回復、通期業績見通しは据え置き**

	ライン品	補給品
A社	中国及びアジア市場向生産減少 中国向けはシェア縮小に伴う減少、アジア向けは国政選挙等影響に伴う公共投資抑制による一時的な要因。2Q以降回復	前期3Qから継続実施している在庫削減により一時的に減収。2Q以降は正常循環に戻り前年度と同等の水準で推移
B社	中国市場のプレゼンス再考に伴う工場リストラによる中国生産からブラジル・インド生産への体制移行による一時的な在庫調整による減収。新サプライチェーン構築完了に伴い20.3期2Q以降回復	2019年1月より、サプライチェーン再構築に伴う在庫削減影響により大幅減収。2Q以降は正常循環に戻り前年度と同等の水準で推移
C社	生産計画に変更なし、予算どおり推移	前期1Qはろ材からガラス繊維ろ材切換えによる受注増。前期4Qから今期1Qにかけ在庫調整実施。アジア向けは、国政選挙等の影響による一時的な公共投資抑制により減収。今期2Q以降は前年度と同等の水準で推移
D社	中国市場向け生産計画減少により若干減収	前年度の中国市場向けの初期手配により、在庫過多となっていることにより減収
E社	米国向けシェア減少により生産計画減少したことにより減収	米国向け年間の発注予測前期比15%減少により減収



I

2020年3月期第1四半期実績及び2020年3月期通期見通し

P3

II

建機市場を取り巻く環境

P22

III

今後の戦略

P28



I

2020年3月期第1四半期実績及び 2020年3月期通期見通し

2020年3月期 第1四半期業績（2020年4月~6月）



	2019/3期 Q1 実績	2020/3期 Q1 実績	前年同期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
売上高	3,492	2,740	△751	△21.5%
営業利益	521	117	△403	△77.5%
営業利益率	14.9%	4.3%	△10.6Pt	
当期純利益	421	61	△360	△85.5%
純利益率	12.1%	2.2%	△9.8Pt	
為替レート AR USD	109.1	109.9	0.8	0.7%
EUR	130.1	123.5	△6.6	△5.1%

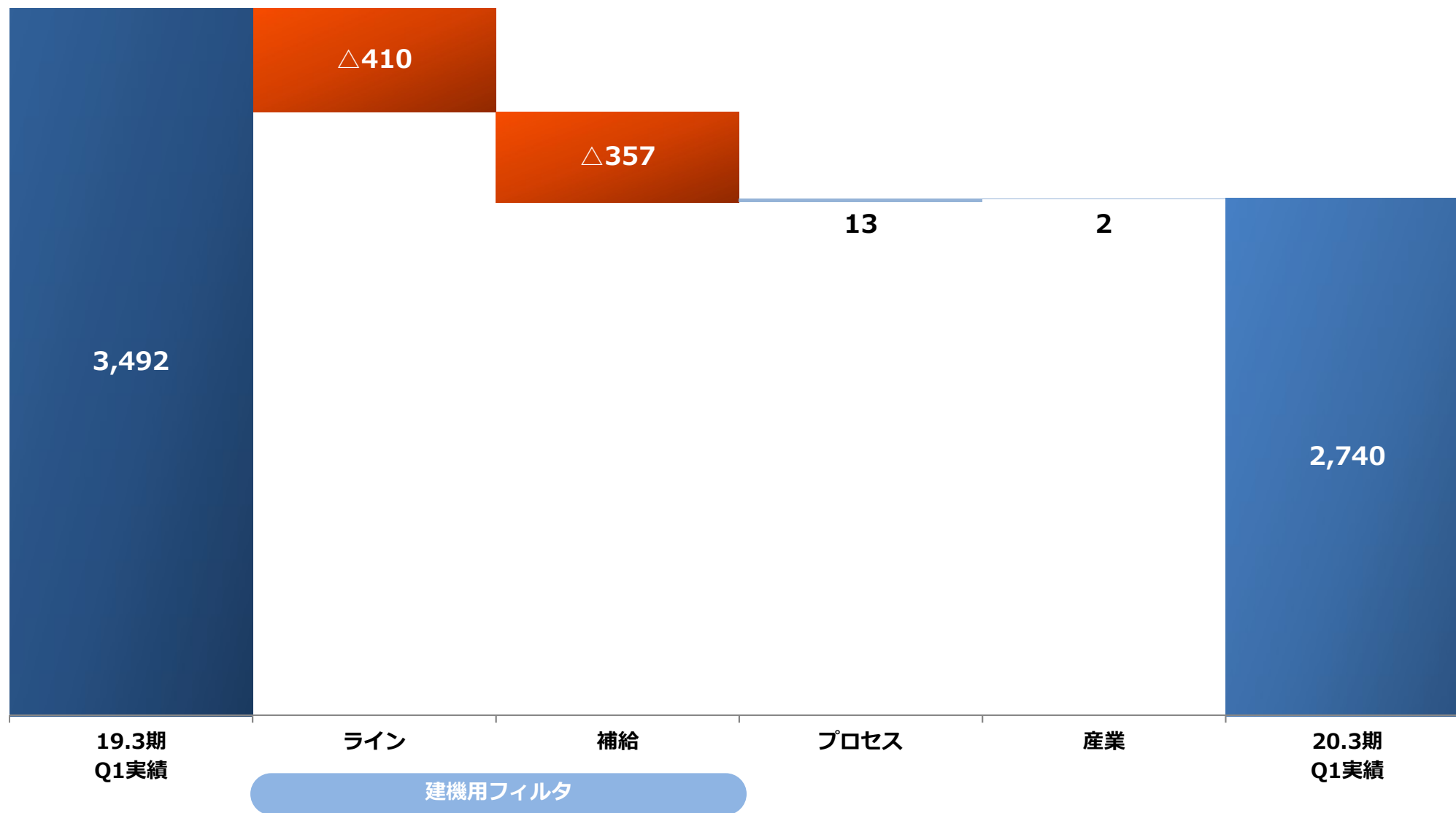
※実績為替レートは期中平均の値です。

	2019/3期 Q1 実績	2020/3期 Q1 実績	前年同期比 増減	
	金額	金額	金額	%
(単位：百万円)				
建機用フィルタ	3,155	2,388	△767	△24.3%
ライン品	1,512	1,102	△409	△27.1%
補給品	1,643	1,286	△357	△21.8%
産業用フィルタ	130	132	1	1.4%
プロセス用フィルタ	206	219	13	6.6%
売上高合計	3,492	2,740	△751	△21.5%

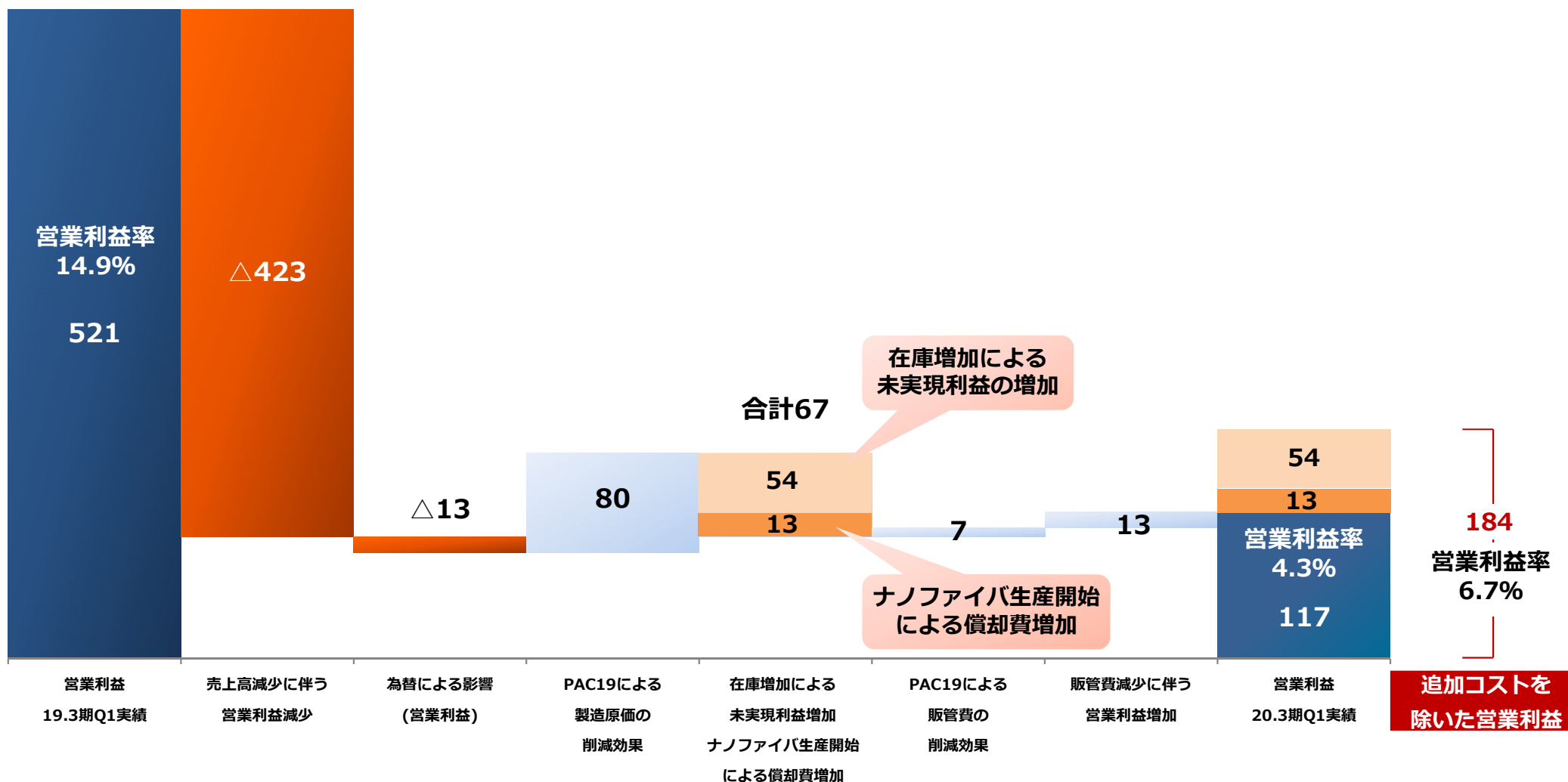
	2019/3期 Q1 実績		2020/3期 Q1 実績		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
国内	1,629	46.6%	1,357	49.6%	△ 272	△16.7%
北米	521	14.9%	463	16.9%	△ 58	△11.2%
中国	565	16.2%	329	12.0%	△ 236	△41.8%
アジア	484	13.9%	325	11.9%	△ 158	△32.7%
欧州	292	8.4%	264	9.6%	△ 28	△9.8%
その他 (中東他)	0	0.0%	0	0.0%	0	—
売上高合計	3,492	100.0%	2,740	100.0%	△ 751	△21.5%

(注) 当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

(単位：百万円)



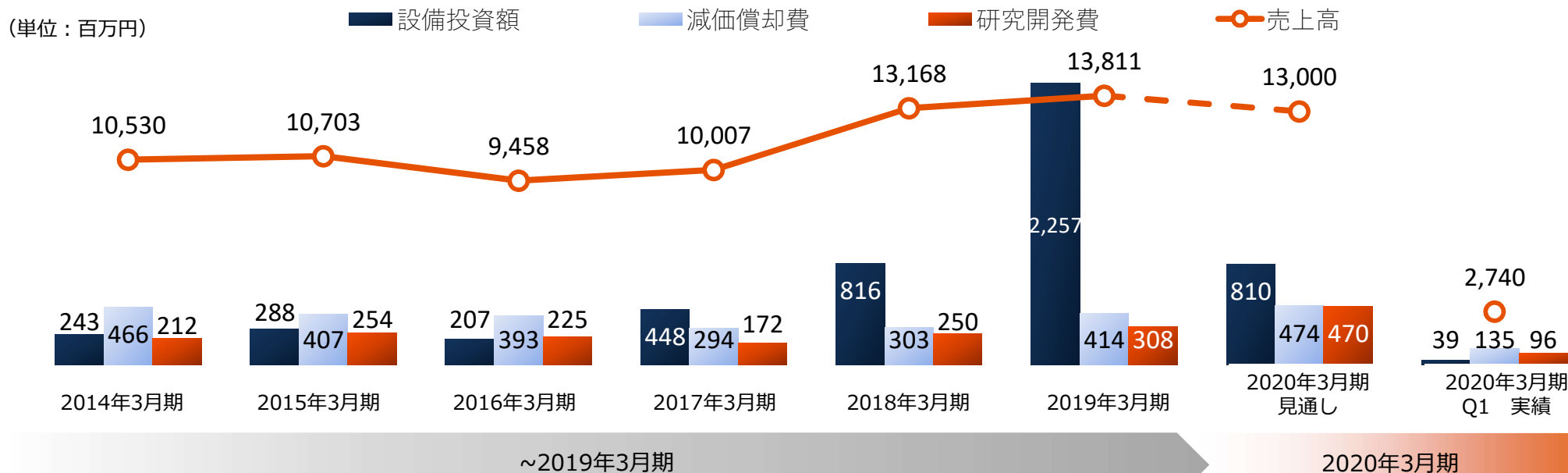
(単位：百万円)



※PAC (Promptly Activated Cost reduction) 全社的なコスト削減プロジェクト

(単位：百万円)	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2020年3月期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	見通し	Q1 実績
売上高	10,530	10,703	9,458	10,007	13,168	13,811	13,000	2,740
設備投資額	243	288	207	448	816	2,257	811	39
構成比%)	2.3%	2.7%	2.2%	4.5%	6.2%	16.3%	6.2%	1.4%
減価償却費	466	407	393	294	303	414	474	135
構成比%)	4.4%	3.8%	4.2%	2.9%	2.3%	3.0%	3.6%	4.9%
研究開発費	212	254	225	172	250	308	428	96
構成比%)	2.0%	2.4%	2.4%	1.7%	1.9%	2.2%	3.3%	3.5%

売上高及び設備投資・減価償却費の年度推移



管理部門にとどまらず、現場にまで
企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY'Sとは (ROIC - WACC)

Maximizing
Added
Value of
Yamashin Filter
Spread

投下資本の利潤最大化を目指し、
各責任部署が (KPI) を設定し
業務に取り組む (KSF) ための
最重要指標 (KGI)

MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える

各指標に対して、担当部署を
割り振り、各KPIを設定して
目標達成に向けた業務運営を
全社にて行う

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (KSF)	責任部署	20.3期部門目標 (action plan)	20.3期第1四半期進捗			
MAVY's Prv: 0.0% Cur: -4.5%	売上高営業利益率 Prv: 14.9% Cur: 4.3%	売上総利益率 Prv: 47.6% Cur: 45.0%	売上高伸長率 Prv: 13.7% Cur: -21.5%	新製品開発 純正率向上	営業・開発	・中国メーカーへの参入拡大 ・Nano Filterの需要拡大 ・新規事業領域への進出	・中国国営企業新機種向け標準品採用決定 ・アパレル業界向け量産供給開始 ・ハイブリッドフィルタの各社提案進捗	
			売上原価率 Prv: 52.4% Cur: 55.0%	購買力強化 歩留り改善	生産・購買	・PAC19 ・購買手法の改革改善 ・生産管理の改善	・購買先の評価基準の見直しと集約の実施 ・歩留まり改善に向けたTQCの見直し ・計画的な保守・保全計画策定及び実施	
			減価償却費率 Prv: 2.4% Cur: 4.6%	投資計画	経営企画 財務経理	・成長戦略に基づく新素材 (Nano)、製品開発投資計画策定及び実施	・新規事業ポートフォリオ (アパレル等) 向け量産投資計画の立案及び実行 ・計画的設備更新投資のプラン策定並びに実行	
		販管費率 Prv: 32.7% Cur: 40.8%	研究開発費率 Prv: 2.0% Cur: 3.5%	テーマの絞り込み 優先順位	開発	・新素材の開発 ・IoTの取り組み ・エアレーション他技術開発	・ナノファイバー製エアフィルタ製品化の加速 ・得意先別各種センサー試験品供給 ・産学連携による新素材開発の加速	
			人件費率 Prv: 13.5% Cur: 15.9%	最適な人員構成	人事・総務	・タレントマネジメント 制度策定・運用	・製品開発に向けた研究要員の増員 ・事業再編にかかる職業専門家 スタッフの採用	
	ROIC Prv: 7.8% Cur: 5.4%	下ろし資本回転率 Prv: 0.8 Cur: 0.7	売上債権回転率 Prv: 4.5 Cur: 4.2	債権管理	営業 財務経理	・債権回収率の改善強化	・運転資金改善に向けた債 権回収の効率化・合理化対 応	
				棚卸資産回転率 Prv: 7.1 Cur: 5.8	適正在庫の設定	生産 営業	・全社棚卸資産の圧縮	・棚卸資産のパレート分析に 基づく適正在庫量の決定な らびに削減計画の履行
			ROE Prv: 8.1% Cur: 5.1%	仕入債務回転率 Prv: 4.6 Cur: 8.4	債務管理	購買 生産	・ワーキングキャピタル改善	・運転資金の改善に向けた債 務支払い回転率の適正化
					有形固定資産回転率 Prv: 9.5 Cur: 4.8	設備計画 (R&D・生産)	経営企画 総務・生産・開発	・投資回収効果最適化
			ROA Prv: 6.8% Cur: 4.4%	無形固定資産回転率 Prv: 34.5 Cur: 36.3	投資計画	経営企画 財務経理	・投資回収効果最適化 ・SAP活用	・事業ポートフォリオ拡大を 前提にした投資計画の妥当 性の検証

- 生産技術・管理・システムの総合的な改善を実施し、利益体制の強化を図る

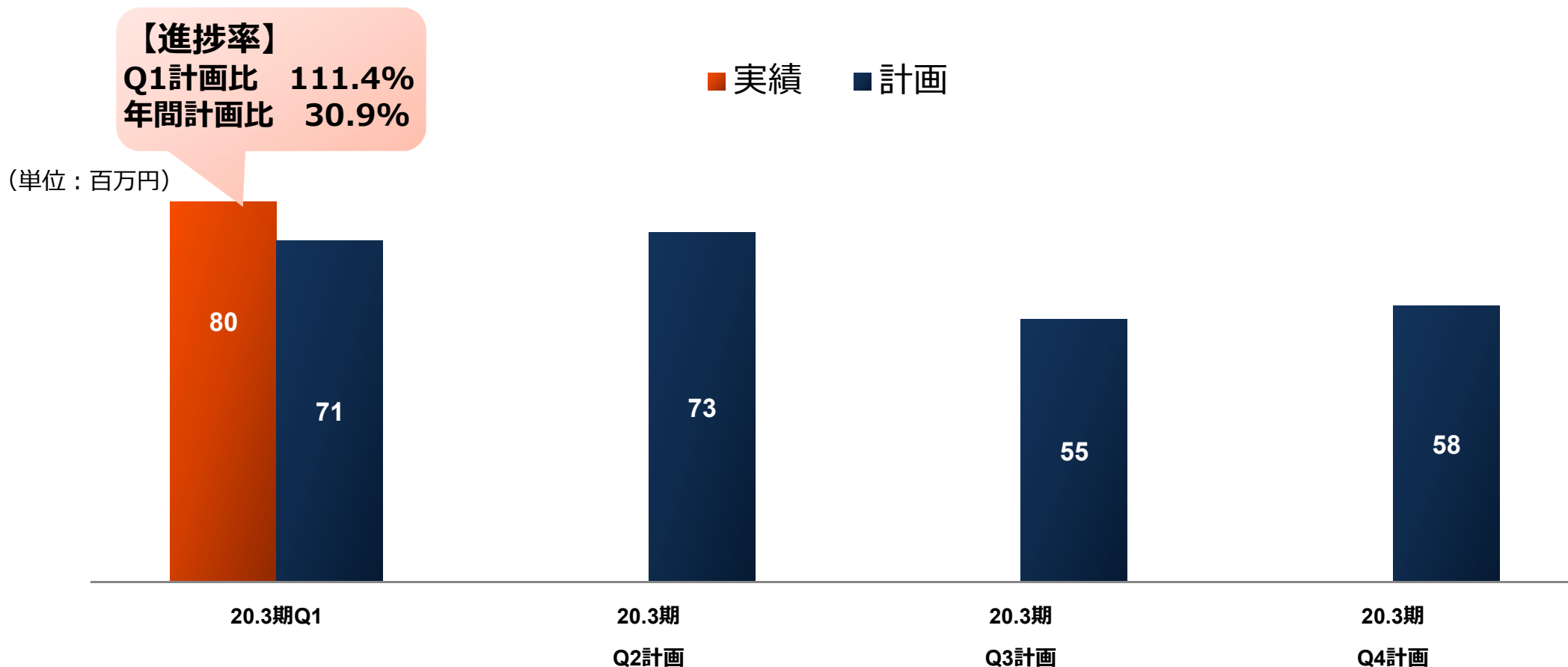
PAC19

Promptly 迅速

Activated かつ効果的な

Cost reduction コスト削減計画

20**19**



2020年3月期 通期業績予想



	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し	19年3月期実績 対 20年3月期見通し
	金額	金額	金額	金額
(単位：百万円)				
売上高	13,168	13,811	13,000	△811
売上総利益	6,074	6,479	6,300	△179
売上総利益率	46.1%	46.9%	48.5%	1.6Pt
販売管理費	4,163	4,515	4,650	134
販管比率	31.6%	32.7%	35.8%	3.1Pt
営業利益	1,910	1,963	1,650	△313
営業利益率	14.5%	14.2%	12.7%	△1.5Pt
経常利益	1,824	1,915	1,600	△315
経常利益率	13.9%	13.9%	12.3%	△1.6Pt
当期純利益	1,249	1,413	1,100	△313
純利益率	9.5%	10.2%	8.5%	△1.7Pt
為替レート AR USD	110.9	110.9	108.0	△2.9
EUR	129.7	128.4	130.0	1.6

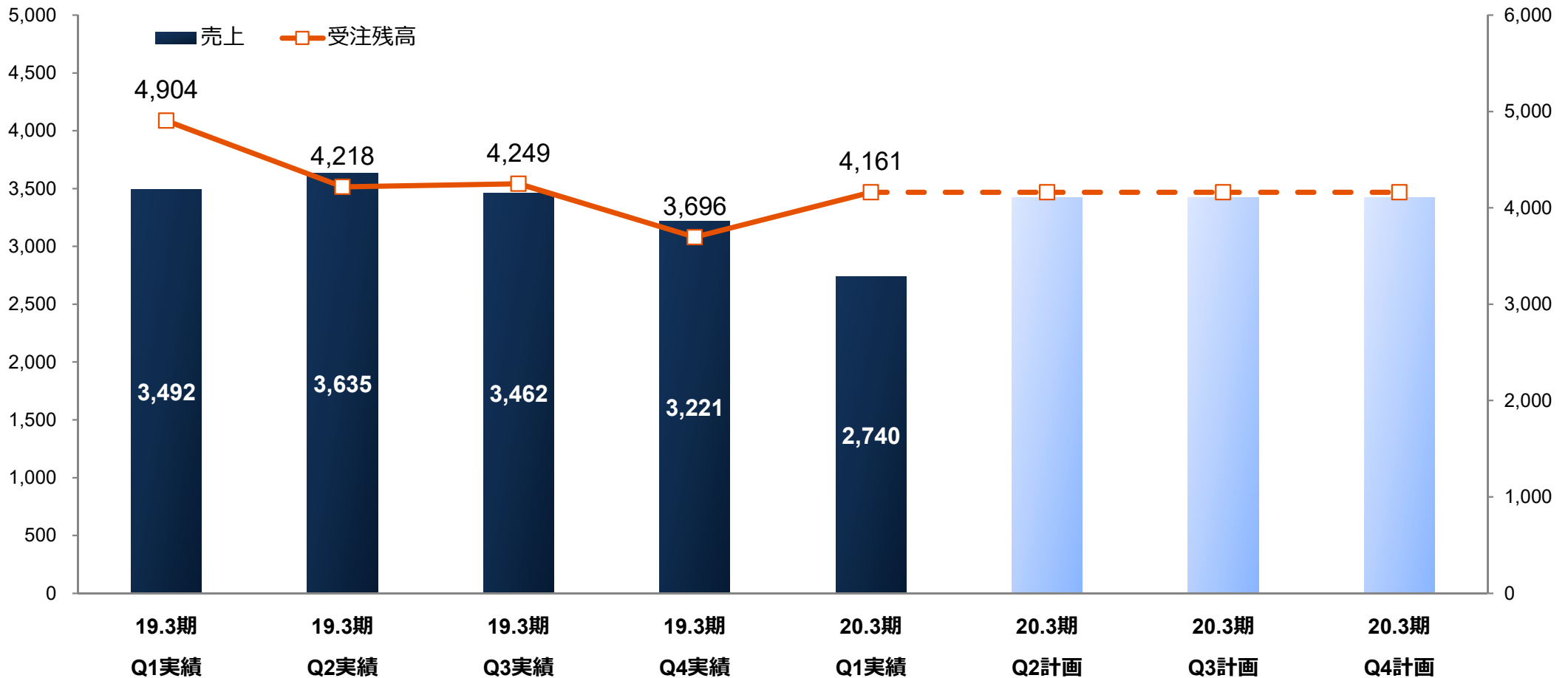
	2019年3月期 実績		2020年3月期 見通し		19年3月期実績 対 20年3月期見通し	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
建機用フィルタ	12,353	89.4%	11,543	88.8%	△809	△6.6%
ライン品	5,535	40.1%	5,062	38.9%	△473	△8.6%
補給品	6,817	49.3%	6,481	49.9%	△335	△4.9%
産業用フィルタ	548	4.0%	572	4.4%	24	4.4%
プロセス用フィルタ	909	6.6%	883	6.8%	△25	△2.8%
売上高合計	13,811	100.0%	13,000	100.0%	△811	△5.9%

	2019年3月期 実績		2020年3月期 見通し		19年3月期実績 対 20年3月期見通し	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
国内	6,541	47.5%	6,058	46.6%	△482	△7.4%
北米	2,253	16.3%	2,440	18.8%	186	8.3%
中国	1,813	13.1%	1,480	11.4%	△333	△18.4%
アジア	1,741	12.6%	1,694	13.0%	△46	△2.7%
欧州	1,454	10.5%	1,298	10.0%	△155	△10.7%
その他（中東他）	6	0.0%	27	0.2%	20	341.7%
売上高合計	13,811	100.0%	13,000	100.0%	△811	△5.9%

（注）当社の請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます

受注残高が下期の売上高へ貢献予定

(単位：百万円)



- 為替は完全マリーが継続している。為替感応度99.9%を実現



取引通貨の7割はJPY

USDは為替マリーを実現

- 為替が1円円高になった場合の営業利益影響額は約0.8百万円増益

中間配当 3.0円、期末配当3.0円の年間6.0円据え置き

	17年3月期	18年3月期	19年3期	20年3月期 予想
1株当たり 配当金	2.4円※1	3.6円※1	6.0円	6.0円
DOE	2.3%	1.9%	2.4%	2.3%
総還元性向※2	25.6%	21.6%	31.9%	42.9%

注) 2017年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております

※1 2017年3月期、2018年3月期の配当額については、参考値として上記株式分割後の金額を記載しております

※2 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得 + 株主優待) ÷ 当期純利益



II

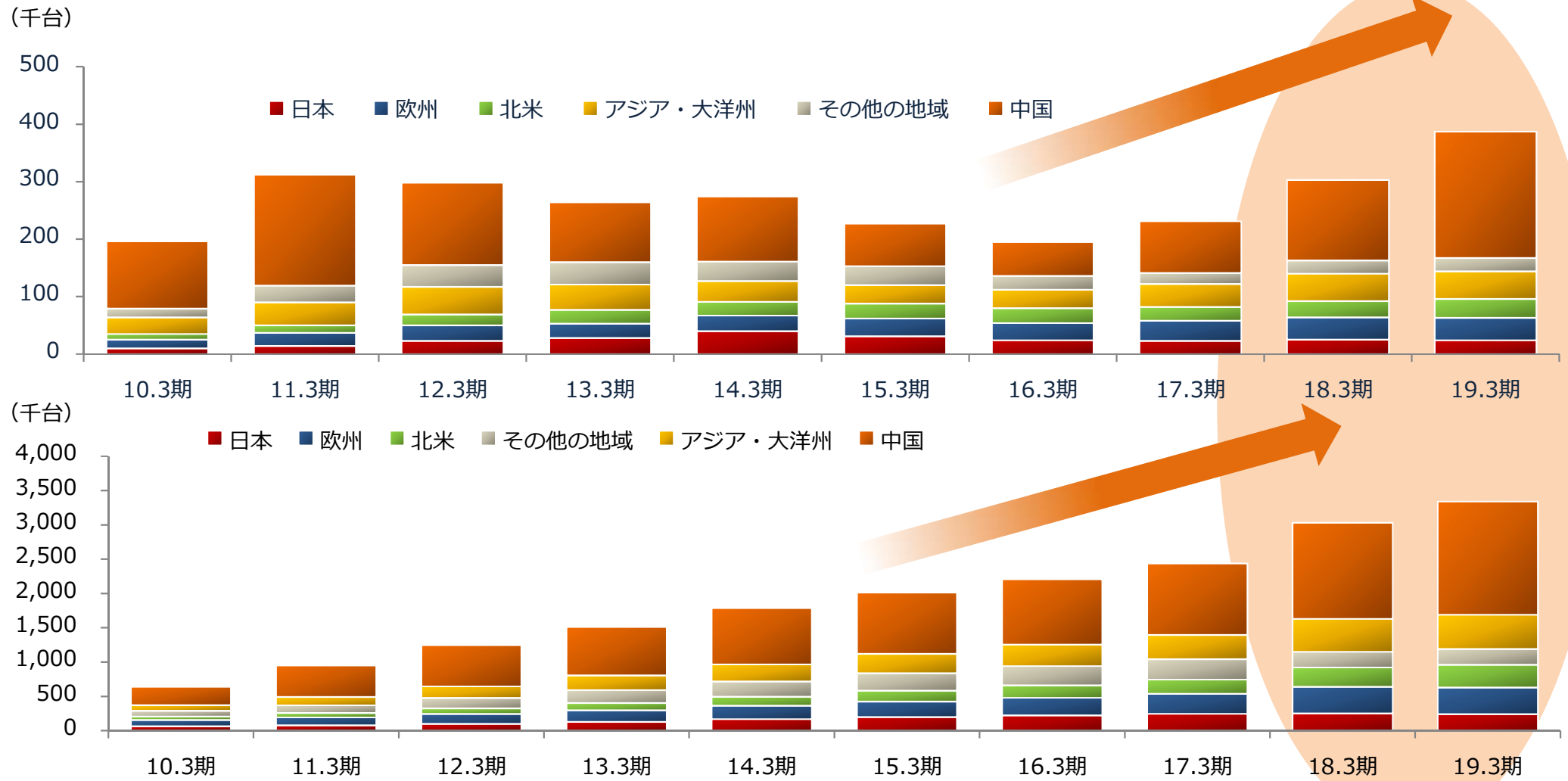
“建機市場を取り巻く環境”

【総括】

- 米中貿易摩擦の懸念があるものの、中国は公共投資を対策として実施。中国経済は全体的には堅調に推移
- 世界の建機市場の約5割を占める中国市場において、主要得意先日系メーカーはシェア縮小、新車生産計画を下方修正、補給品在庫持ち高調整を実施

	過去	現状	今後の見通し
中国	不動産投資鈍化により 大幅な減産	インフラ投資拡大に伴い堅調に推移 当社主要得意先のシェア減少が顕著	政府主導による公共投資下支え継続 排ガス規制契機にローカルメーカーへの 拡販目指す
東南 アジア	鉱山機械投資が低迷するも、 インフラ投資は堅調	インドネシア、タイ、フィリピンでの 国政選挙影響により需要は一時的に減少	インフラ整備等の潜在需要は堅調
北米	インフラ投資により 需要回復	インフラ投資中心に 需要は前年比増加	需要は堅調に推移すると見込む
日本	堅調な国内インフラ投資により 需要増加	設備投資・公共投資持ち直し 需要は前年並み	需要は前年比並みと見込む
欧州	軟調に推移	EU離脱問題先行き不透明も 需要は堅調に推移	需要は堅調に推移すると見込む

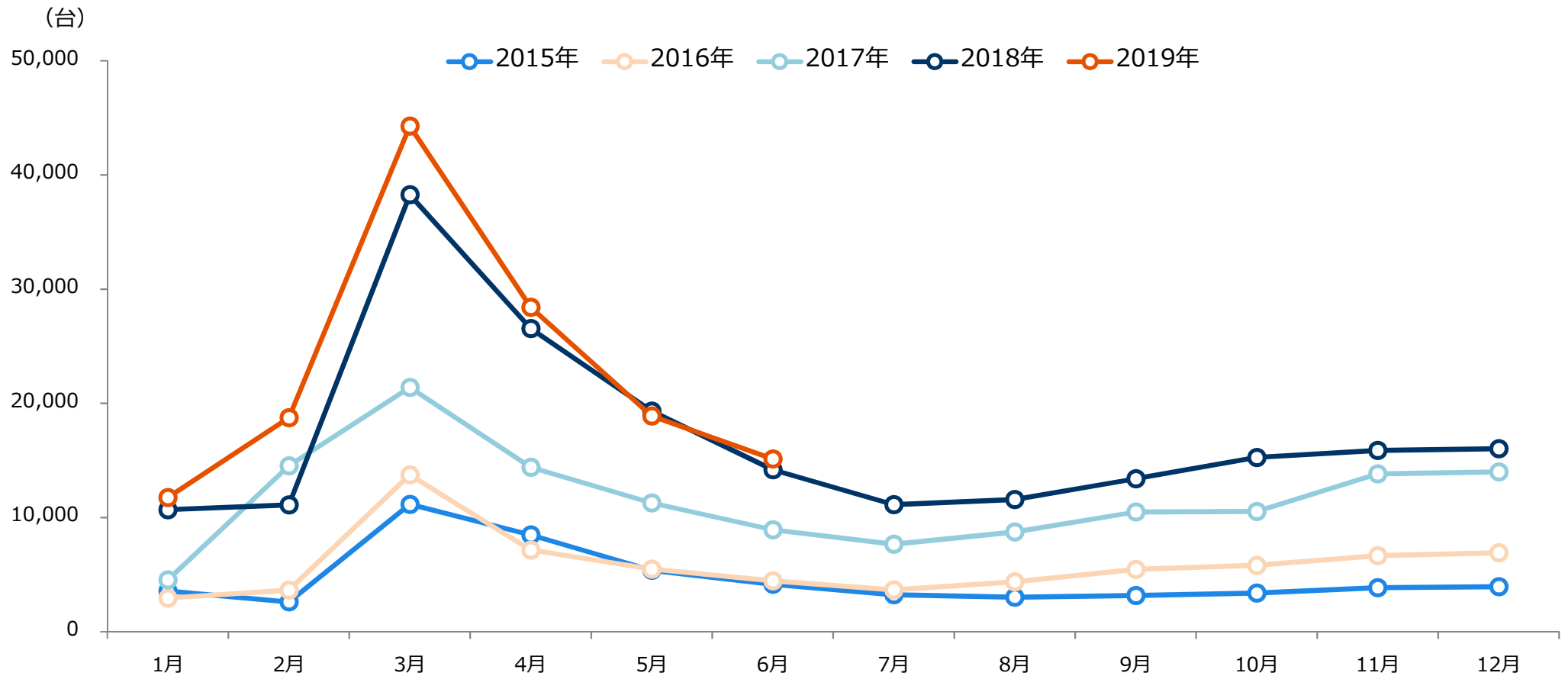
中国市場は、依然として拡大が見込まれる



(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)

中国建機需要は今年も旺盛に推移

年度別販売推移（月別）

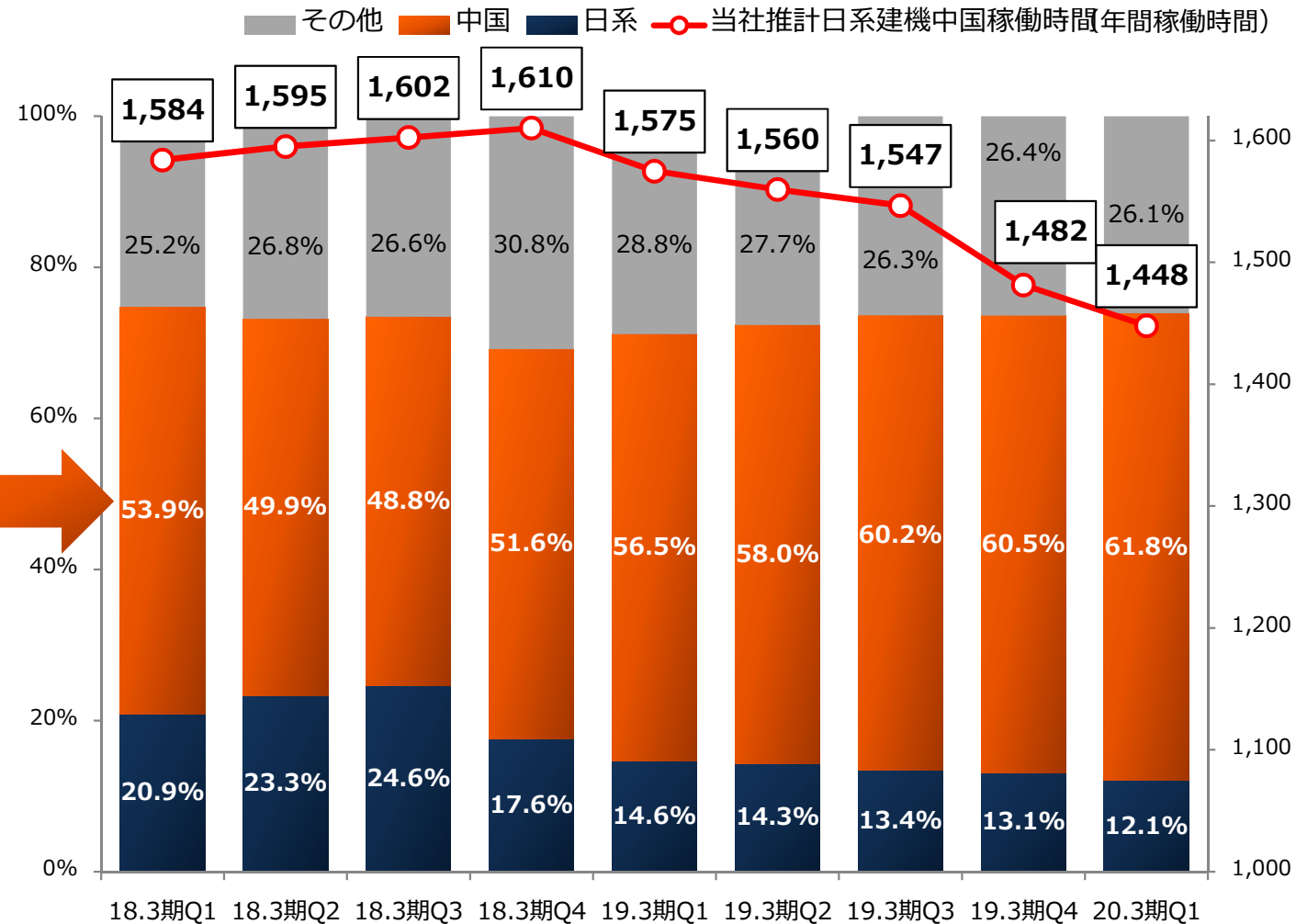
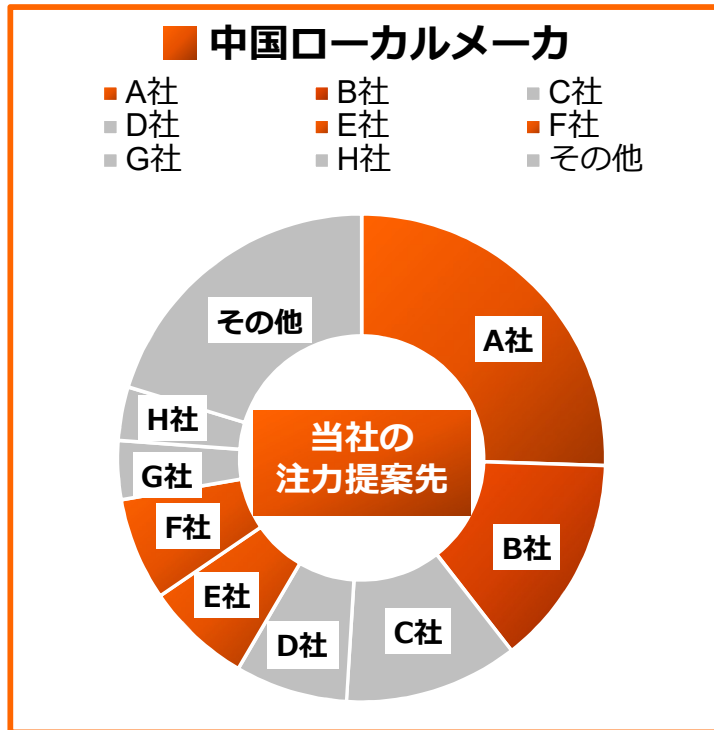


(各建機メーカーおよび工業会公表データより当社推計)


日系メーカーのシェアが下がり、中国ローカルメーカーのシェアがUP

中国市場 販売シェア推移

中国建機市場における、 主要建機メーカーシェア

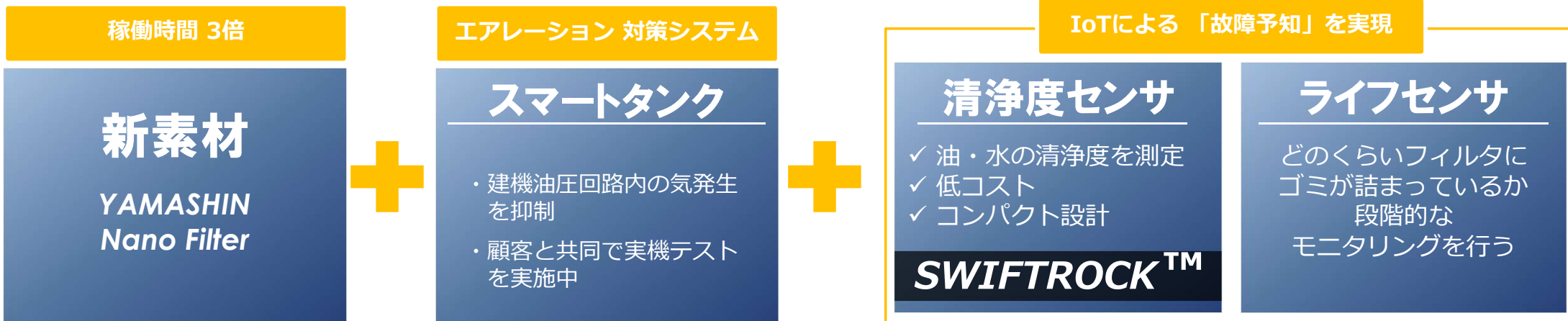


		主な取り組み	進捗状況
建機 フィルタ	ライン品	<ul style="list-style-type: none"> 故障予知、IoT・ICT技術の提案 新素材を使ったリターンフィルタの提案 中国建機メーカーへの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカー向けにSWIFTROCK・ライフセンサ搭載提案中。実機試験継続中 新素材を使ったリターンフィルタ量産供給開始 Tier4規制対応新機種向けに、ハイブリッドフィルタの採用が開始
	補給品	<ul style="list-style-type: none"> セミナー展開によって非純正品からのシェア向上 	<ul style="list-style-type: none"> 中国建機メーカーの補給品も当社製品を供給開始
	産業・プロセス フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> 製品ラインナップの拡充・強化 	<ul style="list-style-type: none"> SWIFTROCKの搭載提案等 新素材を活用した製品の開発による既存顧客の深耕並びに新規顧客拡大
ナノ フィルタ	アパレル	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の主要アパレルメーカーへの当社ナノファイバー製品の提案加速 	<ul style="list-style-type: none"> 主要紳士服メーカーへの新素材量産供給開始 最大手アパレルメーカーを含む多数の企業依頼による試作品の提案並びに来期商品化に向けた企画提案
	エア フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> 次世代エアフィルタの開発並びに量産化体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年3月期中に新素材エアフィルタの量産供給に向け、開発を進展中 大手白物家電メーカーに対し当社新素材開発提案進展
	産業 副資材等	<ul style="list-style-type: none"> 建材、車両等の幅広い産業副資材需要に向けたナノファイバー素材・製品の提案 	<ul style="list-style-type: none"> AI等を活用した次世代農業ベンチャー企業への当社新素材保温シートの標準化進展 自動車吸音材の量産供給進展
事業領域 拡大の施策		<ul style="list-style-type: none"> 新規事業領域拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の事業領域拡大へ向けエアフィルタ、不織布の事業領域、またナノ技術を持つ企業へアプローチ



III 今後の戦略について

● 「新素材×エアレーション対策システム×IoT」で付加価値を向上、
マーケットシェアアップを狙う



建機用フィルタ

2019年1月より新素材を使ったフィルタの量産供給を開始



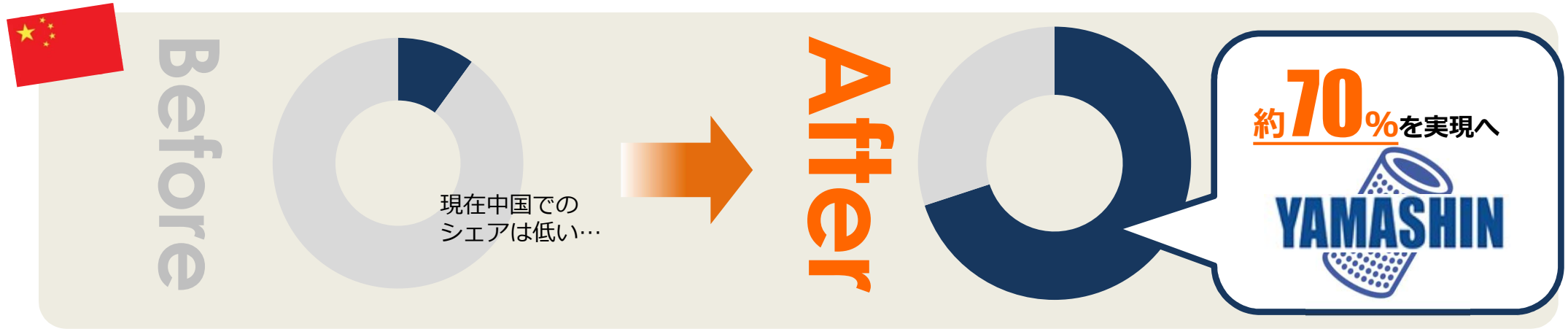
ハイブリッドフィルタ
ガラス繊維×ナノファイバー

従来のものより、フィルタのライフが3倍になり、交換回数が減る結果、廃棄物を削減。建機寿命延長を実現

**環境への負荷の
軽減に寄与**

各建機メーカーモデルチェンジ時の採用に向け、提案中





ディーゼルエンジン 排出ガス規制 「Tier4」

- 2020年12月1日 規制開始
- 各社新型モデルを早急に開発対応中

YAMASHIN Nano Filter

IoT、エアレーション対策システム

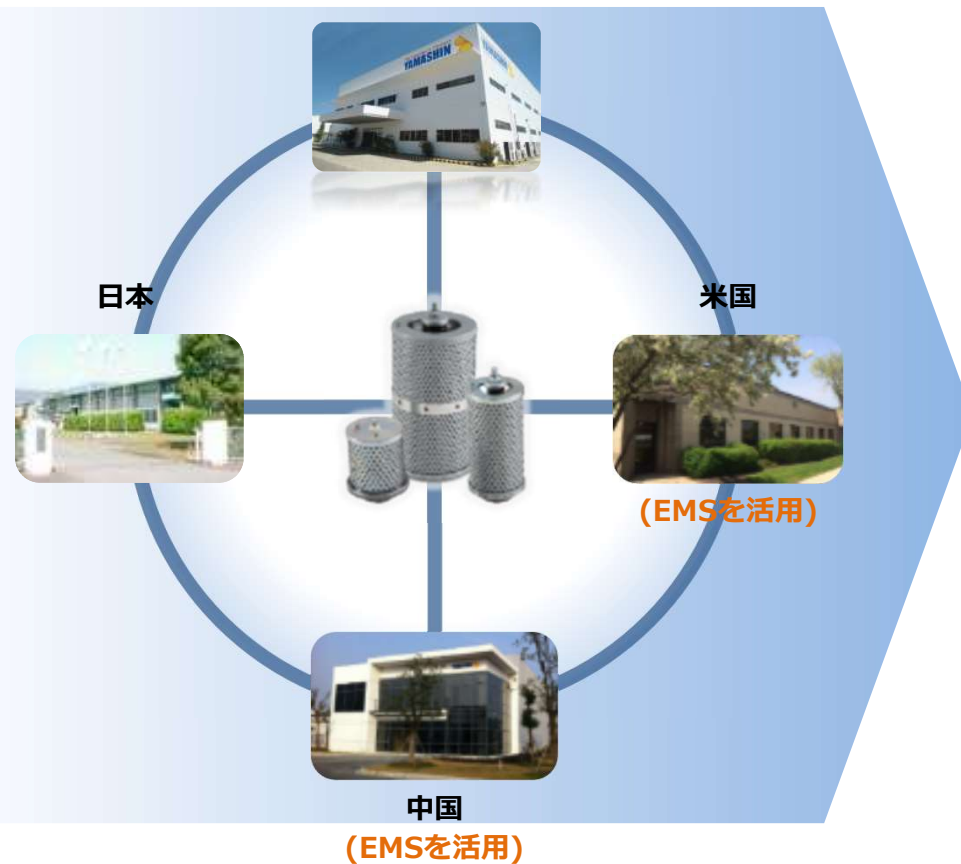
これまでのコスト重視から品質重視へ
高品質の製品を中国マーケットにも投入

モデルチェンジのタイミングを逃さず、
中国ローカルでもトップシェア獲得へ

- 生産拠点の見直し・再編により、Multiple な生産体制の構築を実施
- 購買力を強化し、グローバル・サプライチェーンの再構築を実施

Multiple ソーシング

フィリピン



目的・GOAL



- R&D一貫体制の確立を実現するための研究開発センターの新設（神奈川県横須賀市）
- 実機試験場を整備し、顧客要求を迅速に反映

既存拠点を包括する
新たな開発拠点
(2022年竣工予定)



横浜開発センター



佐賀事業所



横須賀メディアラボ



新設費用
30億円



建機油圧フィルタ



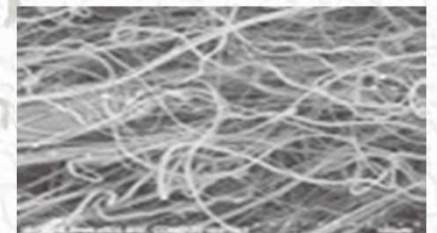
既存
分野



産業/プロセスフィルタ



新たな
分野



ナノファイバー

世界トップシェアを誇る建機用フィルタ事業

建機用フィルタ事業は、インフラ整備の投資拡大及びアフターマーケットの強さを背景に持続的な成長が見込まれる

売上及び利益面で大きな貢献が予想される新規事業

多様な用途への活用が期待されるYAMASHIN Nano Filterが成長ドライバー



参考資料

① 当社基本情報

当社グループの概要

当社グループは、創業以来、一貫してフィルタの専門メーカーとして実績を重ねてきました
 当社グループは、フィルタのキーパーツである「ろ材」の主な材料であるガラス繊維や不織布及びフィルタの構成部品に使用される
 金属加工品や樹脂加工品等の仕入を行い、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを製造しております
 当社グループは、各フィルタの「ろ材」の開発及び製品設計から製造をグループ内で一貫して行い、
 建設機械、産業機械等の業界向けに販売を行っております

建機用フィルタ分野

建機用フィルタとは、建機の駆動に不可欠である油圧回路の作動油、燃料のディーゼル・オイル、エンジン駆動に必要な潤滑油のろ過に用いられるフィルタのことで、あらゆる建機に搭載されています。



フィルタエレメント
(建機用)

産業用フィルタ分野

産業用フィルタとは、様々な業界に応用されている油圧ユニットの作動油や潤滑油のろ過に用いられるフィルタのことであり、工作機械、冷凍用圧縮機、農業機械、船舶、鉄道車両、航空機やヘリコプター等の産業機械に用いられています。



ラインフィルタ
(船舶用)

プロセス用フィルタ分野

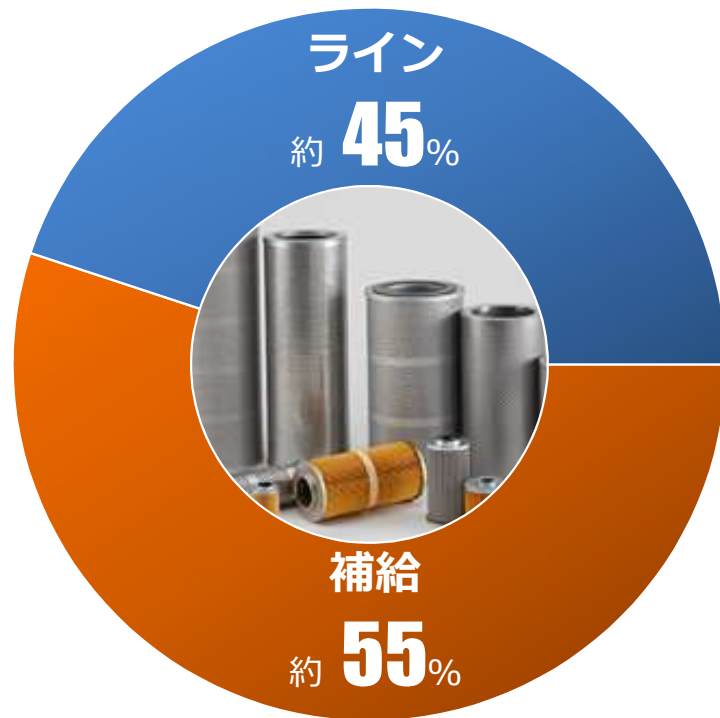
プロセス用フィルタとは、顧客製品の製造工程で行われるろ過・分離に必要なフィルタのことであり、電子部品、精密部品、液晶ディスプレイや食品等の業界に用いられています。



不織布フィルタ
(電子部品用)

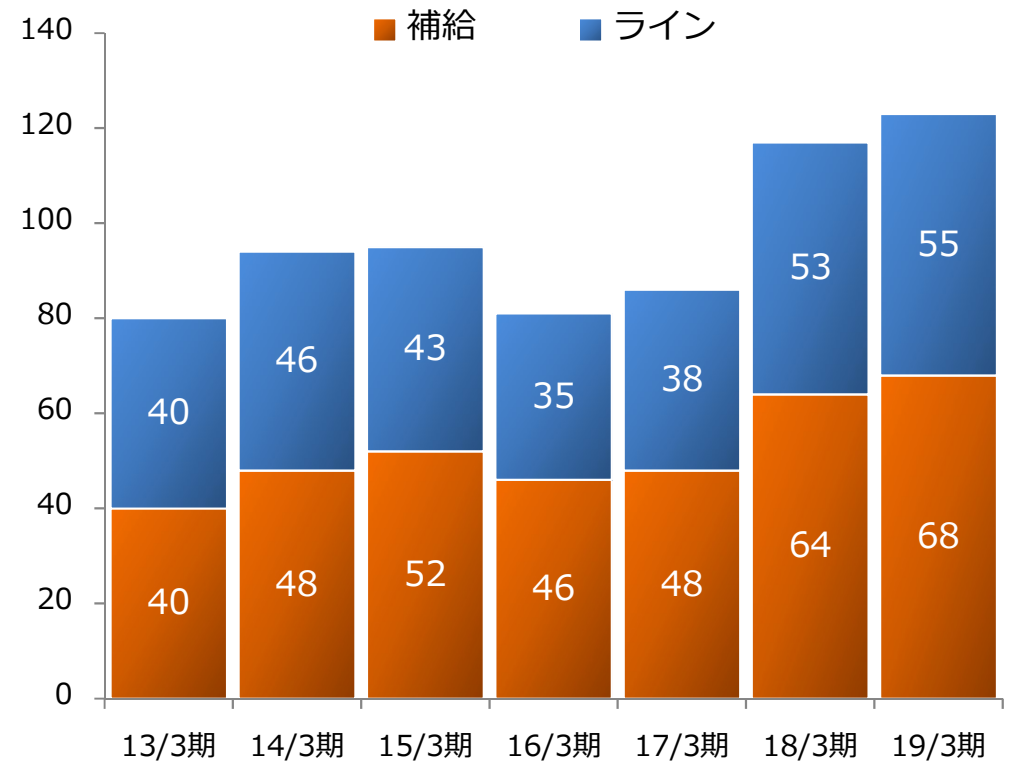
補給はストックモデル 建機の稼働台数の蓄積により、安定した需要拡大が見込める

19.3期 建機用フィルタ 売上構成



補給・ラインの売上高推移

(単位：億円)



建設機械の稼働に不可欠なフィルタ 多様多彩なラインナップを提供

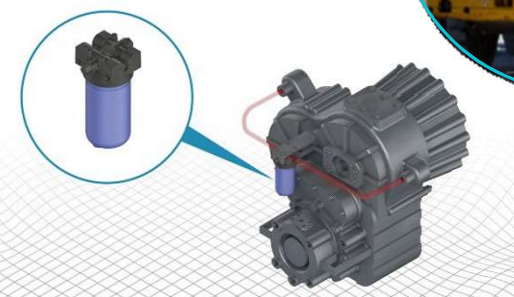
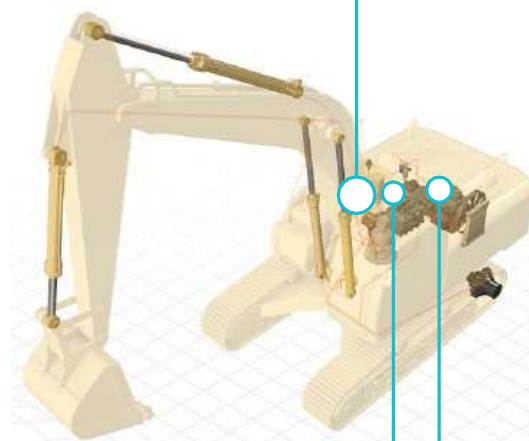
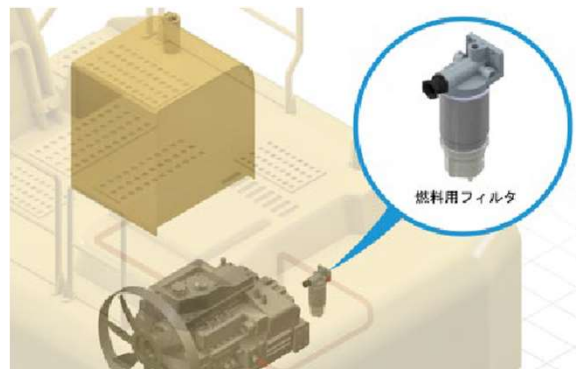


油圧用

シリンダー等の油圧機器の保護を目的に、建機に複数搭載されるフィルタです。建機の故障の原因は、約7割がオイル内のダストによる機器破損といわれています。当社では、創業以来のノウハウで最適なフィルタを提供しています。

燃料用

ディーゼル燃料に混入したダストの除去を目的としたフィルタです。昨今、世界的に進んでいる排ガス規制をきっかけに、燃料に求められる清浄度が高まっています。粗悪燃料が蔓延している新興国では、特に需要増が見込まれています。

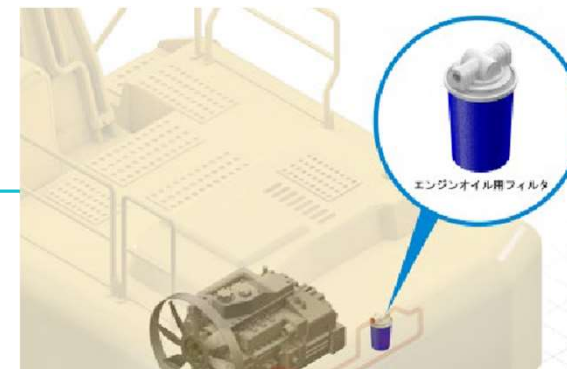


トランスミッション用

トランスミッション（変速機）機構を持つ建機に搭載されるフィルタです。トランスミッションは複数のギアで構成されるため、ギア同士の摩擦で金属粉等のダストが発生します。当社では自社製「ろ材」によってこのダストを適切にろ過し、機器のダメージを防ぎます。

エンジンオイル用

建機の各種エンジンに搭載されるフィルタです。エンジンの内部では動力を発生させるためにピストン等が高速運動をしています。エンジンオイル用フィルタは、その際に混入する摩耗（金属）粉やスラッジ（堆積物）等を除去し、性能低下や破損リスクを低減します。



セグメント と KPI

- 建機用フィルタは「**ライン品**」と「**補給品**」に分かれる
- ライン品は新車搭載用のフィルタ。重要指標は「**新車需要台数**」
- 補給品は交換部品用のフィルタ。重要指標は「**稼働台数**」×「**稼働時間**」

販売形態 地域別動向 コスト削減

- **販売形態**
建機用フィルタの売上は、建機メーカーへの直接販売。エンドユーザへの直販は基本的に行っていない
- **地域別動向**
地域別売上高は参考値。当社請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と異なる
- **PAC19 (Promptly Activated Cost reduction 2019)**
全社的なコスト削減プロジェクト

用語	計算式
MAVY's	ROIC - WACC
ROIC	NOPAT ÷ 投下資本
投下資本利益率	(経常利益+支払利息) ÷ 投下資本
運転資本回転率	売上高 ÷ (売上債権+棚卸資産-仕入債務)
固定資産回転率	売上高 ÷ 固定資産
売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権
棚卸資産回転率	売上高 ÷ 棚卸資産
仕入債務回転率	売上原価 ÷ 仕入債務
有形固定資産回転率	売上高 ÷ 有形固定資産
無形固定資産回転率	売上高 ÷ 無形固定資産
Key Goal Indicator(KGI)	当期：累計実績値+予算、前期：年間実績値
Key Performance Indicator (KPI)	累計実績値比較

※貸借対照表項目について期首期末平均で計算しております。

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

WEAKNESS (弱み)

- 展開事業領域が限定されている
- 売上高の9割が建機用フィルタに依存
- 生産拠点の一極集中

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 建設機械市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達

育成事業



基盤事業 (成長)



構造改革事業

基盤事業 (安定)

新素材開発後

STRENGTH (強み)

- 建機用フィルタ市場における圧倒的なシェア
- **新素材導入による更なるシェア拡大**
- 高い研究開発力
- PAC、MAVY'sによる強固な経営基盤

OPPORTUNITIES (機会)

- 中国市場の拡大、更なるシェア獲得
- プロセス/産業フィルタの市場プレゼンス拡大
- **「総合フィルタメーカー」への飛躍によるビジネス領域の拡大**

WEAKNESS (弱み)

- 売上高の9割が建機用フィルタに依存

THREAT (脅威)

- 建機用フィルタの模倣品増加によるシェア低下
- 中国市場の変調
- プロセス/産業フィルタの成長未達
- **新素材商品展開の遅れ**

総合フィルタメーカーを実現し脱却予定

新素材による模倣品排除

育成事業

プロセス/産業
フィルタ

新素材事業


構造改革事業

STRATEGY
MATRIX

基盤事業 (成長)

建機用
フィルタ

基盤事業 (安定)

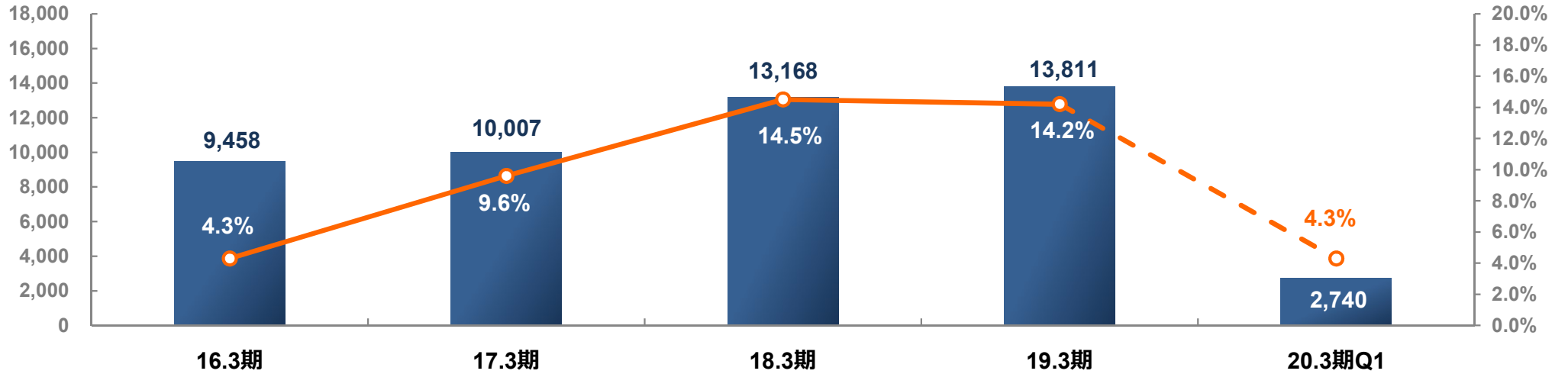


参考資料
②財務ハイライト

売上高・営業利益率推移

(単位：百万円)

■ 売上高 ○ 営業利益率



製品別売上高

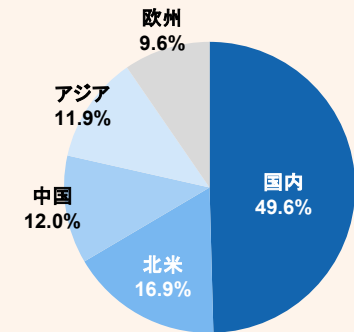
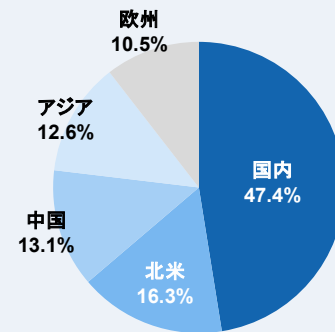
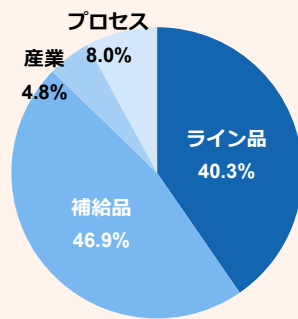
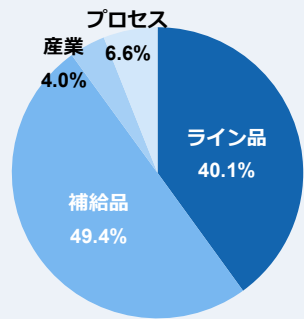
地域別売上高

19.3期

20.3期Q1

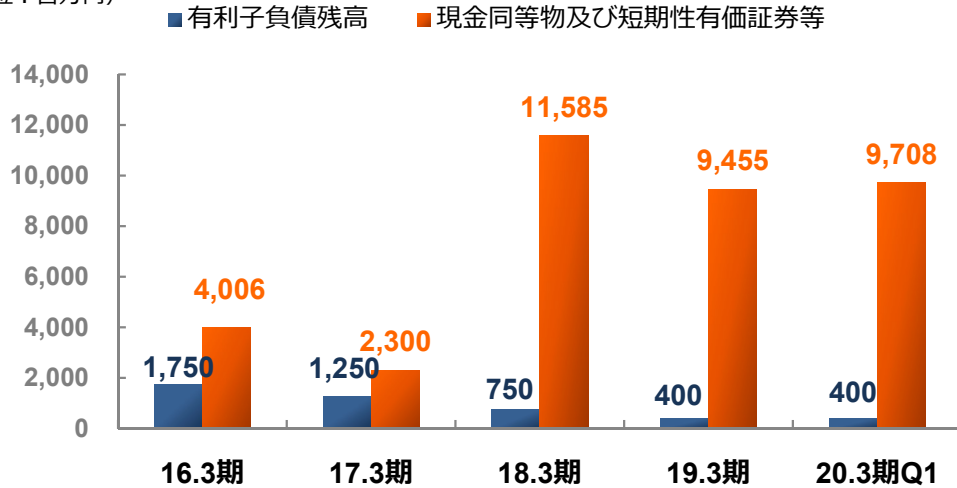
19.3期

20.3期Q1

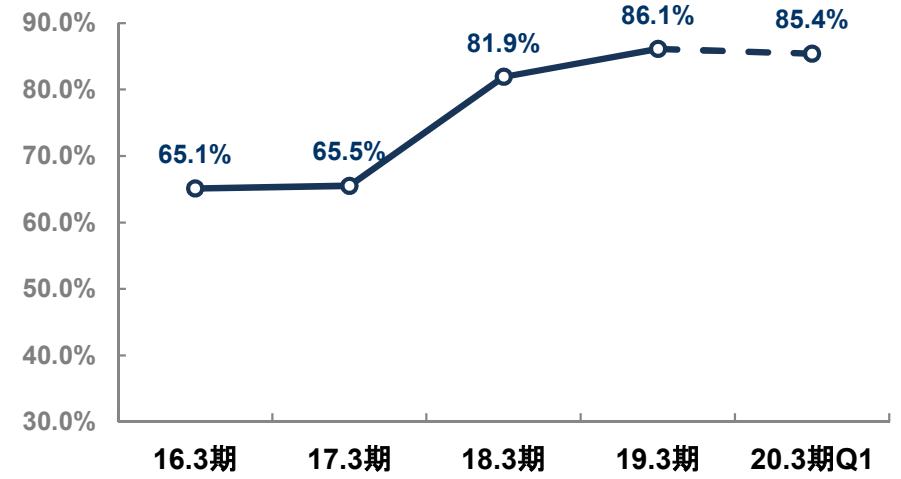


有利子負債・現金同等物及び短期性有価証券等残高

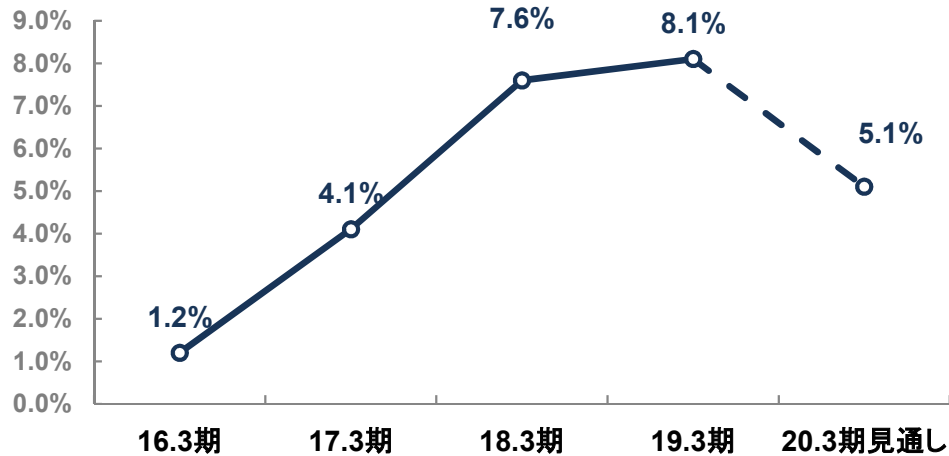
(単位：百万円)



株主資本比率

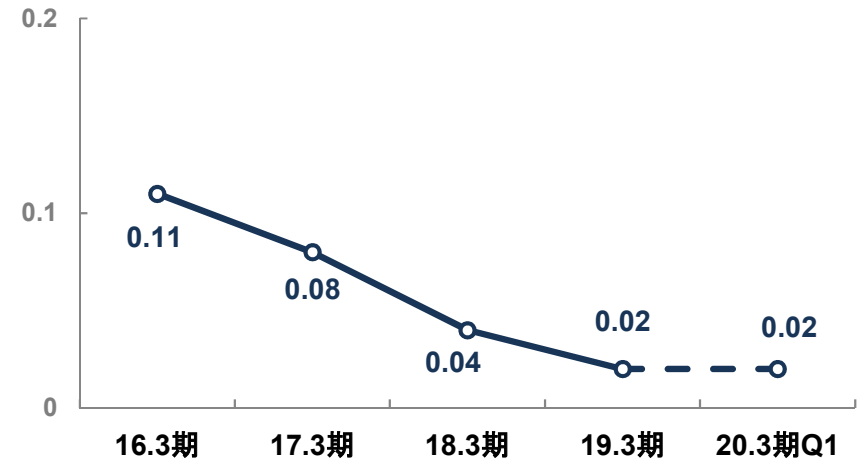


ROE



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

D/Eレシオ

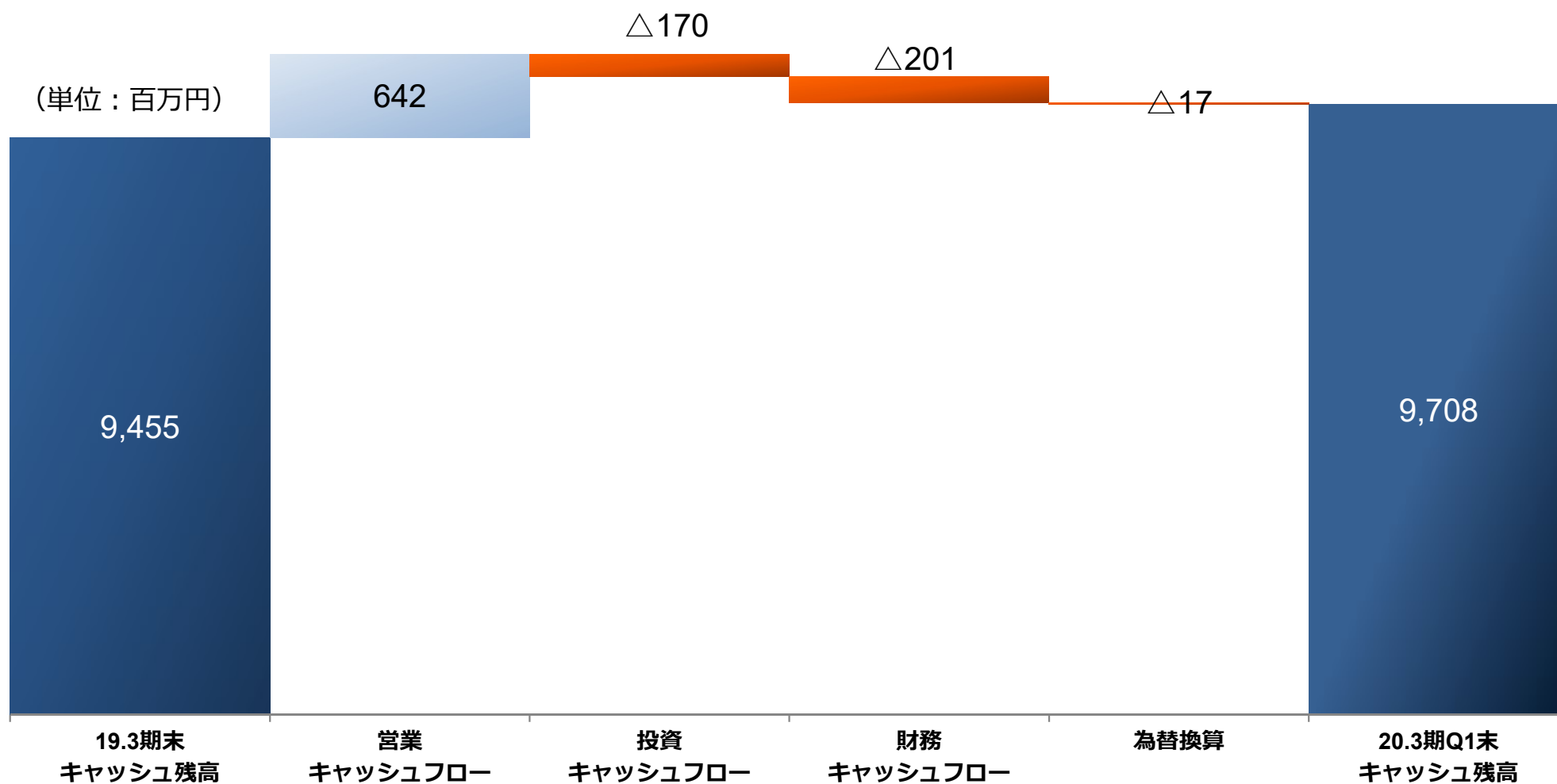


※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

(単位：百万円)

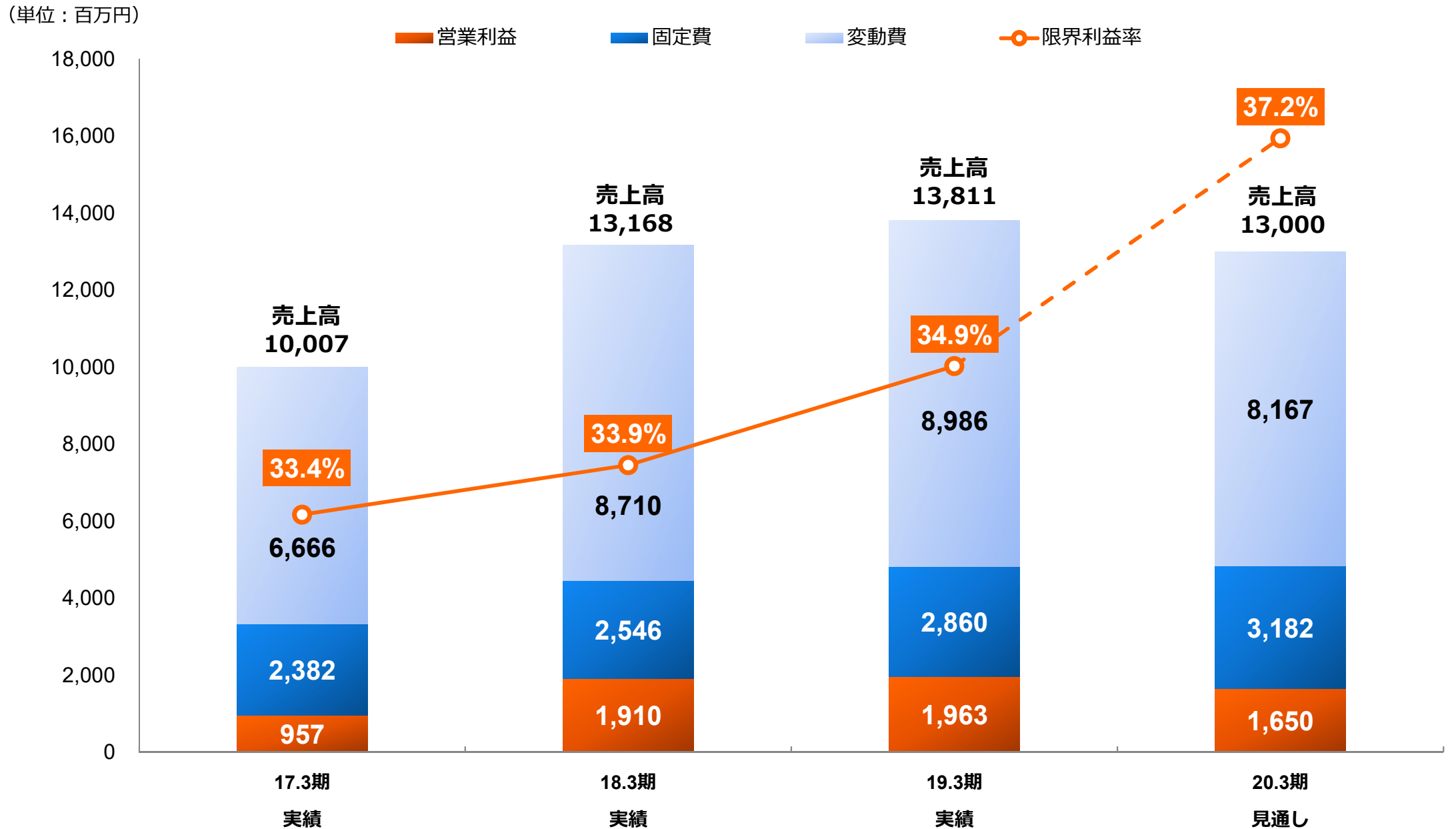
	2019/3期 期末	2020/3期 Q1	増減額	増減率		2019/3期 期末	2020/3期 Q1	増減額	増減率
流動資産	15,391	15,106	△284	△1.8%	流動負債	2,353	2,332	△21	△0.9%
現金及び預金	9,489	9,743	253	2.7%	支払手形及び買掛金	1,288	1,294	5	0.5%
受取手形及び 売掛金	3,252	2,735	△517	△15.9%	1年以内返済社債・長借	200	200	0	—
商品・製品 & 原材料・貯蔵品	2,370	2,312	△58	△2.5%	その他	865	837	△27	△3.2%
その他	278	315	37	13.5%	固定負債	565	723	157	27.8%
固定資産	5,641	5,848	206	3.7%	社債	200	200	0	—
有形固定資産	3,540	3,782	242	6.8%	退職給付に係る負債	190	193	3	1.7%
無形固定資産	346	329	△17	△5.0%	その他	175	329	154	88.0%
投資その他資産	1,754	1,736	△18	△1.0%	純資産合計	18,113	17,899	△213	△1.2%
資産合計	21,032	20,955	△77	△0.4%	負債純資産合計	21,032	20,955	△77	△0.4%

*自己資本比率 86.1% 85.4%



(単位：百万円)

Currency	Incoming			Outgoing			Net	期中平均レート (JPY)	円高ケース (10%)			円安ケース(10%)		
	各通貨	円換算	構成比	各通貨	円換算	構成比			各通貨	期中平均レート ▲10% (JPY)	レート差額	影響額 (QTD)	期中平均レート +10% (JPY)	レート差額
JPY	¥3,800.0	¥3,800.0	71%	¥3,300.0	¥3,300.0	67%	¥500.0	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$12.5	¥1,373.9	26%	\$10.9	¥1,198.0	25%	\$1.6	¥109.9	¥98.92	¥-10.99	¥-17.59	¥120.90	¥10.99	¥17.59
EUR	€ 1.0	¥123.5	2%	€ 0.9	¥111.1	2%	€ 0.1	¥123.5	¥111.14	¥-12.3	¥-1.23	¥135.84	¥12.35	¥1.23
PHP	PP0.0	¥0.0	0%	PP119.4	¥251.9	5%	PP-119.4	¥2.1	¥1.90	¥-0.2	¥25.19	¥2.32	¥0.21	¥-25.19
THB	฿19.50	¥67.9	1%	฿8.00	¥27.8	1%	฿11.50	¥3.5	¥3.13	¥-0.3	¥-4.00	¥3.83	¥0.35	¥4.00
Total	-	¥5,365.2	100%	-	¥4,888.9	100%	-	-	-	-	¥2.37	-	-	¥-2.37



量産化技術を生かし、様々な分野へ 「YAMASHIN Nano Filter」を展開

必要分野には
M&Aの実施を検討

Phase 3
中期的

建材・バイオ分野などへ
展開 (例)

Phase 1
2019.3期

Phase 2
2020.3期



建機・エアフィルタ
農業用資材分野・ア
パレルへの進出

自動車分野への展開



ナノフィルタ

繊維径のコントロールにより、 高品質なフィルタの量産化が実現可能となる

① 大手A社様



【素材特性】

- ・革新的なアパレル素材
- ・極薄特性、超保温性能、高調湿機能

【現状】

- ・量産供給の開始
- ・各アパレルメーカーへの供給体制の構築

② 大手B社様



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・仕様値達成に向けサンプル作製中
- ・製品化へ向けた試作品の性能アップ
- ・安定生産に向けた設備の改善
- ・来期量産化に向けた準備

その他

繊維径のコントロールにより、 高品質なフィルタの量産化が実現可能となる

① 家電用途



【要望】

- ・ガラス繊維で対応しているものの置換

【現状】

- ・更なるファイバー間の緻密さ・極細化必要
- ・線維化時の雰囲気温度の高温化が必要
- ・別途、ロングライフ化エアフィルタとしてエレクトレット加工した素材を評価予定

② 自動車内装用途



【要望】

- ・現行品の性能(吸音・防音性能)以上の素材開発

【現状】

- ・コスト競争力強化
- ・量産供給体制の整備
- ・製品化の具体的な加工、管理方法の検討

③ 生活用品用途



【要望】

- ・現行品よりも高い保温性・保冷性

【現状】

- ・ナノファイバーの断熱効果データ取得
- ・試作品の作製と実験データ取得

The Specialist in Filtration
YAMASHIN 



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL 045-680-1680

E-mail ir@yamashin-filter.co.jp